

ハーフタイム

浜松科学館には三月末まで、漫画家手塚治虫さんの名前の由来となった「オサムシ」が展示されている。そこ

オサムシ秘話

には、昆虫好きの元小学校教諭と教え子の絆が秘められていた。

展示を企画したのは、同館の相談役の安

藤隆敏さん(六三)。以前は小学校の教諭をしており、計算ドリルを終えた子に、岩石をプレゼントしていた。学校で育てていたサナギが行方不明になり、子どもと一緒に捜し回ることもあった。

「足元の石ころにも名前があり、広い世界があるんだ」。そう気づいた当時六年生の北

野伸雄さん(三三)は自然観察にのめり込んだ。卒業してからも先生の元へ足しげく通った。

少年はいま、磐田市の竜洋昆虫自然観察公園ryuhyoで働き「恩返ししたい」とオサムシを貸し出した。教え子の思いのこもったオサムシを、安藤さんはうれしそうに見つめた。

(報道部・相沢紀衣)